

様式(細則 5-2)

令和2年8月13日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため(視察・研修)を(実施・受講)したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 日 令和2年8月1日(土) 9時～11時30分
- 2、研修内容 日本遺産認定をどう活かすか
- 3、研 修 先 益田市(グラントワ)
- 4、調査経費 交通費 ガソリン代 1,270円
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



# 日本遺産認定をどう活かすか「益田の何が日本遺産に評価されたのか」

## —最新の知見を踏まえて—

令和2年8月13日

- 1 日 時 令和2年8月1日(土) 9時～11時30分
- 2 場 所 益田市(グラントワ)
- 3 講 演 「益田の何が日本遺産に評価されたのか—最新の知見を踏まえて—」

益田市歴史文化研究センター 中司 健一 主任

- 4 概 要 ①日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するもので、認定は平成27年度から始まり、全国では104件が、島根県では7か所が、石見地方では5か所が認定されている。  
② 認定後は、地域にある資源などに光を当て、住民の地域への愛着と意思の結集、誇りなどを育み、住民が参画し地域の特色を生かし磨きなどを通じて地域活性化につなげる。  
③ 認定により地域の認知度が高まり、日本遺産を拠点として中心として、各般にわたる取り組みを行うことで、域外への地域情報の発信を行い、観光客や交流人口の増加につなげる。  
④ 島根県内では、認定された順に(1)津和野今昔～百景図を歩く～(2)出雲の國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～(3)荒波を超えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～(4)日が沈む聖地 出雲～神が創り出した地の夕日を巡る～(5)神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～(6)中世日本の傑作 益田を味わう～地方の時代に輝き再び～(7)石見の火山が伝える悠久の歴史～“縄文の森” “銀の山”と出逢える旅へ～などとなっている。  
⑤ 中世益田氏は広くこの地を治め、それを物語る湊、城、館などの遺跡と景観、寺院や神社、町並み、庭園、絵画、仏像などの一級品が残されていることが評価された。これは鹿兒島島津氏とともに、国替え、お家騒動、戦いなどがなく、遺跡や文書などが多く残されている。
- 5 所 見  
① 島根県内にある日本遺産は、ネーミングやテーマにあるように、その重さを感じこの地方の持つ自然、歴史、文化、資源など限りない広がりがあり、かけがえのない地域資源であるが、地域で十分に生かされておらず、行政政策の課題の中心に据える必要がある。  
② 島根県内の7か所を眺めると、神、歴史、古い町並み、たたら製鉄、北前船、夕日、神楽、火山・地球・大地などで、これらは地域に眠る資源であり、これを生かした地域振興策を構想する。  
③ 住民にとって身近なものであるが、地域に、住民に理解されているか、受け入れられ活用されているか、などに課題が残されており、地域をあげた歴史文化の調査研究、観光資源としての磨きなどを進める。  
④ 総領家益田氏の庶子家として、三隅氏、周布氏、福屋氏、永安氏などがいまの浜田市域を治めており中世益田をはじめ、津和野今昔、石見銀山、大田縄文の森なども連携し、歴史文化資源の発掘と圏域で連携し、戦略的で体系的な情報発信を行う。  
⑤ 北前船寄港地では、外の浦・瀬戸ヶ島のほか長浜湊、三隅湊などにも歴史文化や地域資源が残されており、これの発掘とこれらを結びつけた地域活性化策が必要である。  
⑥ 石見神楽では、社中、舞い手、神楽面・神楽衣裳・小道具など関連産業など、幅広い分野での連携、行政として全体をまとめる、行政支援などが必要となっている。—以上—